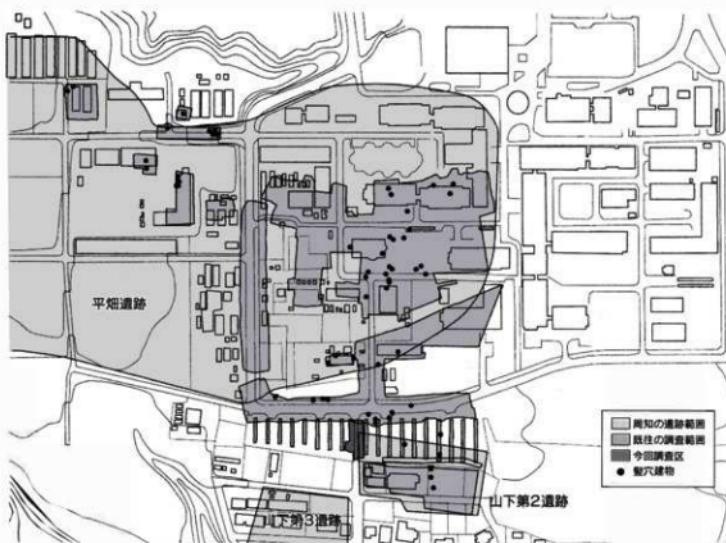


第1図 平畠遺跡位置図 (S=1/25000)



第2図 平畠遺跡調査区位置図 (S=1/4000)

## 第Ⅱ章 調査の成果

### 1 調査に至る経緯

平成 21 年 8 月 4 日、国立大学法人宮崎大学長 住吉昭信氏より、宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地における文化財所在の有無について、宮崎市教育長あてに照会がなされた。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「平畠遺跡」となっており、過去の宮崎大学教育学部による確認調査において縄文時代の遺構が確認されていたため、市教育委員会と国立大学法人宮崎大学との間で、埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を重ねた。結果、工事に伴い遺構面まで掘削の及ぶ範囲について発掘調査を行い、記録保存の措置を探る事となった。

現地における発掘調査は平成 22 年 3 月 8 日から平成 22 年 3 月 30 日の期間行った。整理作業は平成 22 年 11 月 17 日から 11 月 26 日まで行った。

### 2 基本層序

平畠遺跡の基本層序は第 3 図のとおりである。ただし厚さは一定ではなく、また 2 層が削平され、造成土直下において 3 層が検出される場所が調査区の大部分を占める。

1 層：造成土層。耕作土と簡易駐車場にした際の造

成土を一括にして 1 層とした。

2 層：黒色土。前述のとおり調査区内に部分的に残  
存する。いわゆる黒ボク層である。僅かでは  
あるが遺物を包含する。

3 層：アカホヤ火山灰層。場所によっては二次堆積  
のためか色調が暗くなっている部分も見られ  
る。遺構検出面である。

4 層：アカホヤ火山灰降下軽石層。

5 層：黒色硬質土。牛のスネローム層である。

6 層：明褐色ローム層。縄文時代早期遺物包含層に  
相当するが、当調査区では無遺物。

7 層：小林軽石混灰褐色土層。硬質で掘削するとブ  
ロック状の塊になる。

8 層：暗褐色ローム層。場所によって 1 cm 程度の  
小礫混じりになる。

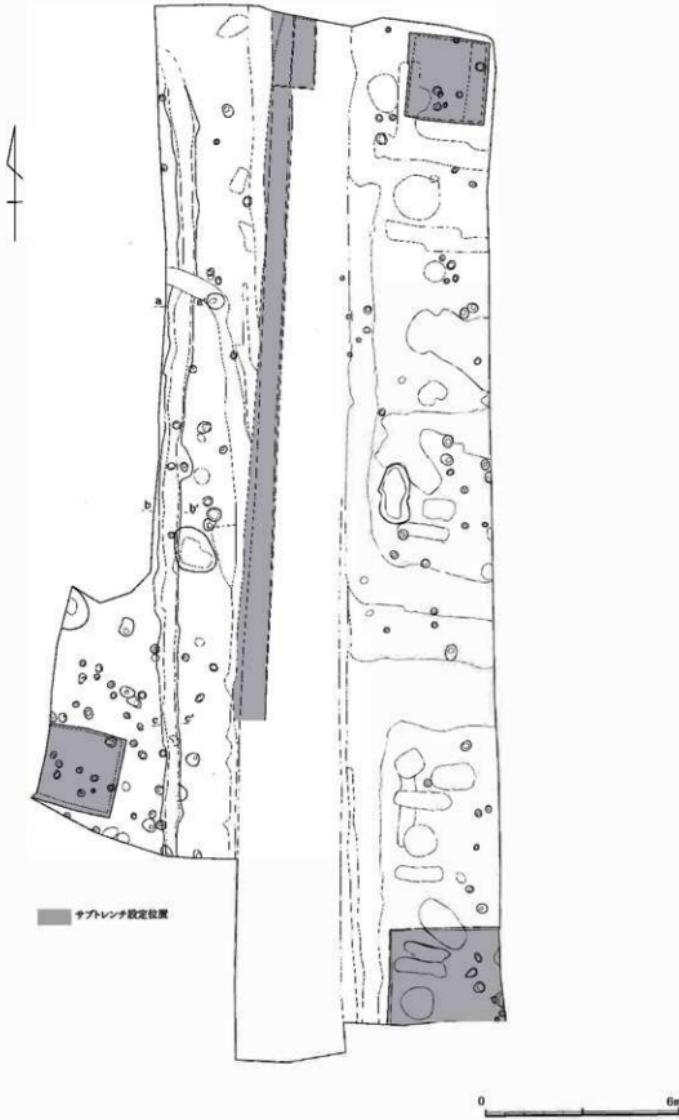
上記のように包含層の大部分が削平を受けていた上に、調査区の中央には南北方向に以前敷設されていた道路による搅乱が、また調査区全域に渡って柑橘類など耕作による搅乱が広がっていた。

V	V	V	V
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

第3図 平畠遺跡基本層序模式図

### 3 調査の概要

本調査区において検出された遺構は、溝状遺構 1 条とピットのみである。溝状遺構は出土遺物から近世の所産とみられる。ピットは縄文後期の遺物が出土するものなど 117 基確認された。また検出段階では土坑と想定された落込みがあったが、半裁、1/4 裁を行い、土層を確認した結果、風倒木等による土層転位と判断された。後世の激しい搅乱を受けていたこともあるが、調査区全体に渡って遺構は希薄であり、台地の上面の縁辺に当たる立地のためと考えられる。その他削平を免れた包含層から少量ではあるが遺物が出土している。



第4図 平畠遺跡調査区平面図 (S=1/150)